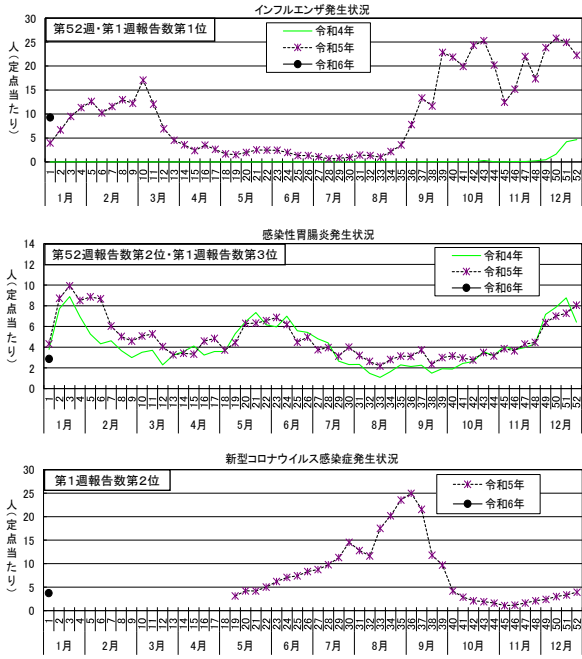


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年12月25日(月)～12月31日(日)〔令和5年第52週〕及び令和6年1月1日(月)～1月7日(日)〔令和6年第1週〕の感染症発生状況
 令和5年第52週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) インフルエンザ 2) 感染性胃腸炎 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 令和6年第1週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) インフルエンザ 2) 新型コロナウイルス感染症 3) 感染性胃腸炎でした。
 令和5年第52週のインフルエンザの定点当たり患者報告数は22.23人と前週(24.95人)から減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。
 令和6年第1週は、年始で多くの医療機関が休診であったため、ほとんどの疾患で報告数が減少しています。



帰国後の体調変化に注意しましょう！

年末年始を海外で過ごされた方も多くかと思えます。帰国後に消化器症状や発熱、発しん等の体調不良を訴える方は比較的多く、自然に回復する場合もありますが、中には思わぬ感染症が潜んでいる可能性もあります。体調がすぐれない場合は早めに医療機関を受診しましょう。また、早期に診断を確定し適切な治療を開始するために、受診の際には症状だけでなく渡航先や渡航期間、渡航中の行動等を医療機関にお伝えください。

帰国後の健康チェックのポイント 例： Dengue熱

①渡航先、渡航期間は？
 例：東南アジアに1週間滞在

②渡航先で何があった？
 例：蚊に刺された

③症状はいつから？
 例：帰国の1週間後から

④症状は？
 例：発熱(38℃)、頭痛、発しん、関節痛

①渡航先、渡航期間等
 渡航先の流行状況や、渡航期間と潜伏期間から、特定の感染症を疑うことができるため、重要な情報となります。

②渡航中の行動
 生の水や加熱していない食物の飲食、虫さされ、動物との接触、性行为等は、診断の際に有用な情報となります。

③発症日
 発症日と潜伏期間を併せて考えることで、渡航先での感染であるかを、明確にすることができます。

④症状
 発熱や下痢の他、発しんや黄疸(白目が黄色くなる)、意識障害等の症状が現れる感染症もあります。

川崎市
 KAWASAKI CITY

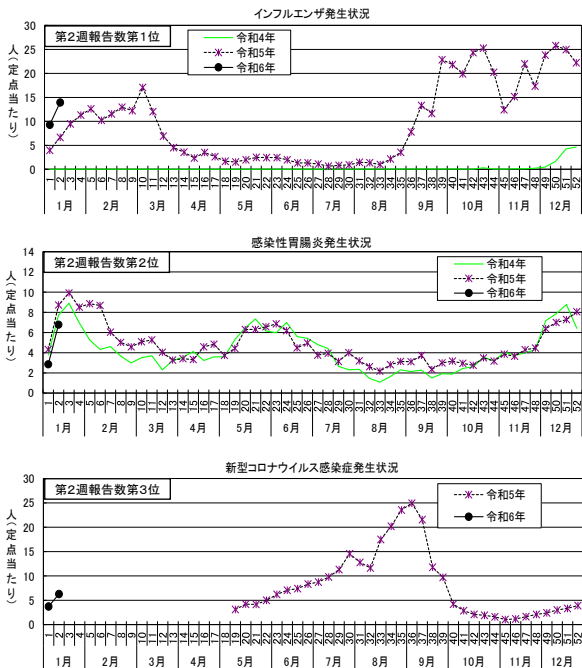
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)
 (問合せ先) 044-276-8250 令和6年1月10日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年1月8日(月)～令和6年1月14日(日)〔令和6年第2週〕の感染症発生状況

第2週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) インフルエンザ 2) 感染性胃腸炎 3) 新型コロナウイルス感染症でした。
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は13.95人と前週(9.29人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.78人と前週(2.86人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
 新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は6.30人と前週(3.75人)から増加しました。

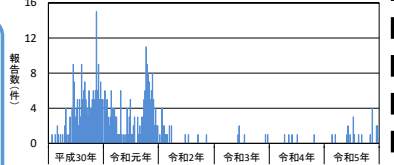


こんな病気にも気を付けて！～百日咳～

百日咳は、特有のけいれん性の咳発作等が現れる細菌感染症です。川崎市では、新型コロナウイルス感染症の流行開始以降、令和3年は6件、令和4年は5件と報告数が減少していましたが、令和5年は21件と再び増加しました。

百日咳は年齢を問わず感染しますが、乳児期早期に感染すると、呼吸停止等の重篤な症状を起こし、死亡する場合があります。予防にはワクチン接種が有効ですが、新型コロナウイルス感染症の流行による受診控え等の影響で、未接種のまま感染し重症化した事例も報告されています。定期予防接種のスケジュールを確認し、対象期間内に百日咳含有ワクチンを必ず接種しましょう。

川崎市における百日咳の発生状況
 平成30年第1週～令和5年第52週



百日咳とは？

【感染経路】
 咳やくしゃみ等による飛沫感染、接触感染

【潜伏期間】
 通常5～10日間(最大3週間程度)

【主な症状】
 ①カタル期：5～10日間の潜伏期間の後、かぜ様症状で始まり、次第に咳の回数が増えて程度も激しくなる。
 ②痙攣期：短く激しい咳が連続して起こり、息を吸う時に笛のような音が出る特有の咳発作がみられる。
 ③回復期：激しい咳が消失した後、発作性の咳が続く。

【予防方法】
 百日咳含有ワクチンの接種(DPT-IPV等)

川崎市
 KAWASAKI CITY

DPT-IPVの標準的な定期接種スケジュール(令和6年1月時点)

初回接種：生後2か月～12か月の期間に20日以上(標準的には20日～56日)の間隔を置いて計3回接種

追加接種：初回接種終了後、6か月以上の間隔を置いて(標準的には初回接種終了後12か月～18か月の間に)1回接種

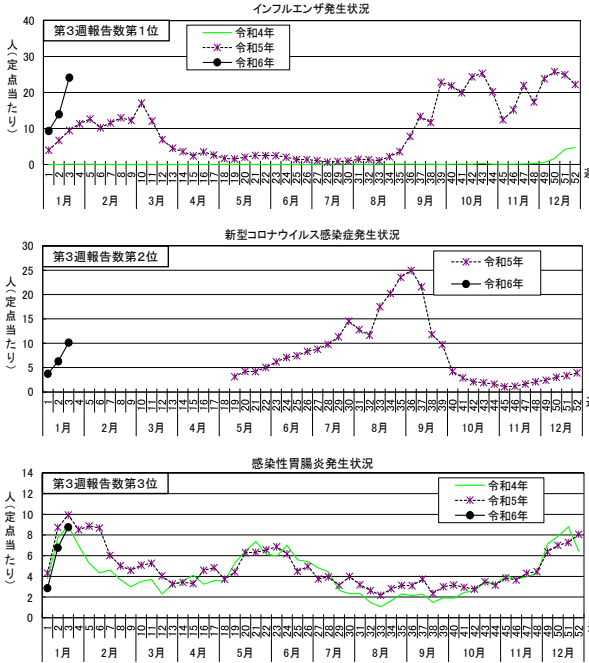
川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)
 (問合せ先) 044-276-8250 令和6年1月16日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年1月15日（月）～令和6年1月21日（日）〔令和6年第3週〕の感染症発生状況

第3週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) インフルエンザ 2) 新型コロナウイルス感染症 3) 感染性胃腸炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は24.17人と前週（13.95人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は10.15人と前週（6.30人）から増加しました。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は8.75人と前週（6.78人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

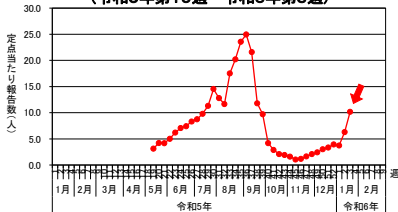


新型コロナウイルス感染症の報告数が増えています！

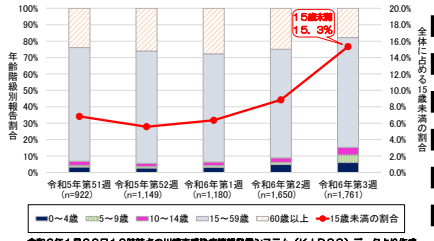
川崎市における新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は、令和6年第3週（1月15日～21日）に10.15人となり、流行発生注意報基準値等ではないものの、インフルエンザにおける流行発生注意報基準値（定点当たり10.00人）に相当する報告数を超過しました。本市が独自に実施している新型コロナウイルス感染症のリアルタイムサーベイランスでは、特に15歳未満の小児の報告割合が増加しており、第3週は15.3%を占めていました。

現在、重症化を予防する目的でオミクロン株XBB.1.5対応ワクチンの接種が行われていますが、本市が実施している新型コロナワクチン接種事業は、令和6年3月31日に終了します。翌年度からは接種対象者が限られる予定ですので、希望される方は早めの接種を御検討ください。

川崎市における新型コロナウイルス感染症発生状況（令和5年第19週～令和6年第3週）



新型コロナウイルス感染症のリアルタイムサーベイランスにおける年齢階級別報告割合（令和5年第51週～令和6年第3週）



川崎市
KAWASAKI CITY

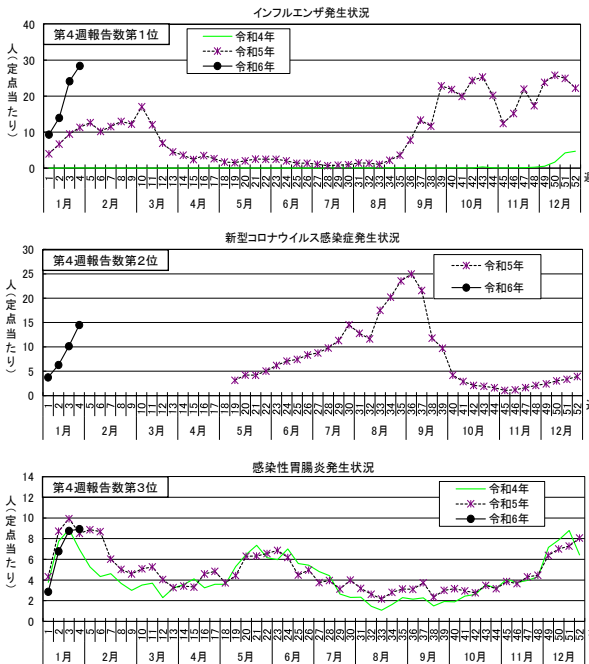
令和6年1月23日12時時点の川崎市感染症情報システム（KIDSS）データより作成
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）（問合せ先）044-276-8250 令和6年1月23日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年1月22日（月）～令和6年1月28日（日）〔令和6年第4週〕の感染症発生状況

第4週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) インフルエンザ 2) 新型コロナウイルス感染症 3) 感染性胃腸炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は28.43人と前週（24.17人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は14.52人と前週（10.15人）から増加しました。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は8.92人と前週（8.75人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



ワクチン接種を忘れずに！～2月4日は風しんの日～

風しんは、発熱や発しん、リンパ節腫脹等の症状が現れる疾患ですが、妊娠早期（20週頃まで）に感染すると、胎児に先天性心疾患や難聴、白内障等の症状を呈する先天性風しん症候群（CRS）を引き起こすことがあります。

CRSの発生を防ぐため、我が国では、風しんワクチンの定期接種の機会がなかった昭和37年4月2日から昭和54年4月1日生まれの男性に、抗体検査と予防接種が原則無料で受けられるクーポン券を配布しています。さらに、川崎市では対象を拡大し、妊娠を希望する女性やそのパートナー等が、無料の抗体検査と接種費用の一部助成が受けられる風しん対策事業を実施しています。免疫が不十分である場合は、ワクチンを接種し、CRSを防ぎましょう。

クーポン券の有効期限が延長されています！
昭和37年4月2日～昭和54年4月1日の間に生まれた男性は、厚生労働省の追加的対策の対象者となり、接種費用も無料となるクーポン券が配布されていますが、クーポン券の有効期限が延長されています。

【延長対象】
有効期限が「2020年3月」「2021年3月」「2022年3月」「2023年3月」の券
【延長後の使用期限】
令和6（2024）年2月末
詳しくは「川崎市 風しんの追加的対策～風しん（第5期）予防接種～」ホームページをご覧ください。

川崎市風しん対策事業について

対象者
川崎市民で、次のいずれかに当てはまる方（過去に風しんと診断された記録のある方、本事業を利用して抗体価が十分であった方や予防接種を受けた方は除く。）

- ・妊娠を希望する女性
- ・妊娠を希望する女性のパートナー
- ・妊婦のパートナー
- ・昭和34年4月2日～平成元年4月1日の間に生まれた男性

実施場所
市内協力医療機関
詳しくは「川崎市風しん対策事業」ホームページをご覧ください。

予防接種までの流れ

①抗体検査（無料） → 風しん抗体がない又は抗体価が不十分 → ②予防接種（3,200円）

川崎市
KAWASAKI CITY

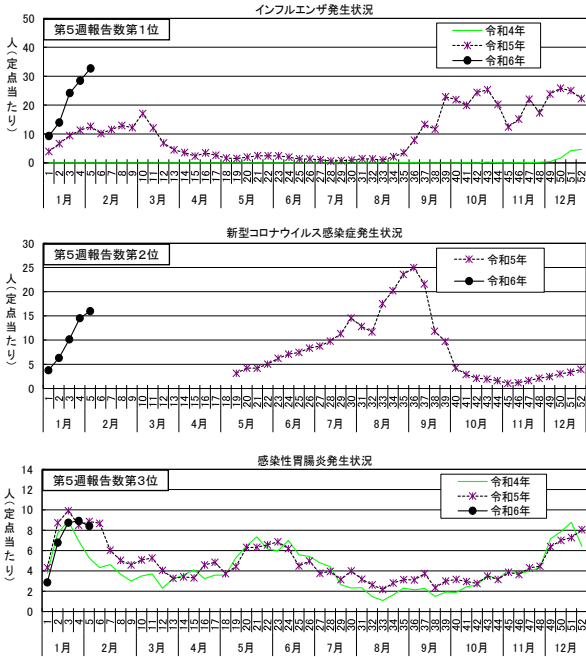
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）（問合せ先）044-276-8250 令和6年1月30日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

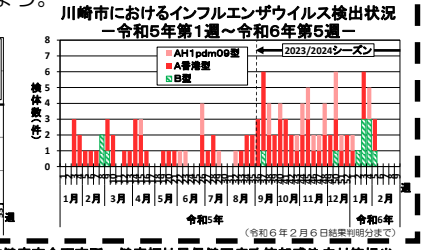
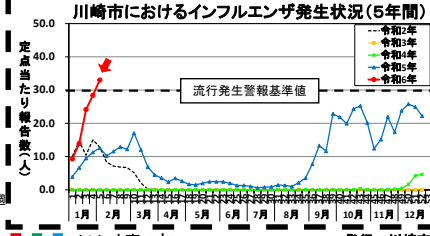
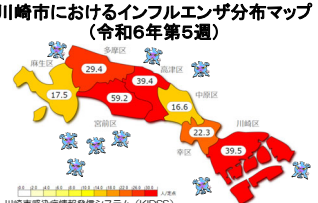
令和6年1月29日（月）～令和6年2月4日（日）〔令和6年第5週〕の感染症発生状況

第5週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）新型コロナウイルス感染症 3）感染性胃腸炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は32.67人と前週（28.43人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は15.98人と前週（14.52人）から横ばいでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は8.42人と前週（8.92人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



インフルエンザの流行発生警報が発令されました！

川崎市におけるインフルエンザの定点当たり報告数は、令和6年第5週（1月29日～2月4日）に32.67人となり、2018/2019シーズン以来、5シーズンぶりに流行発生警報基準値（定点当たり30.00人）を超えました。区別では、宮前区が59.20人と最多で、次いで川崎区が39.50人、高津区が39.44人となっています。川崎市におけるインフルエンザ分布マップ（令和6年第5週）



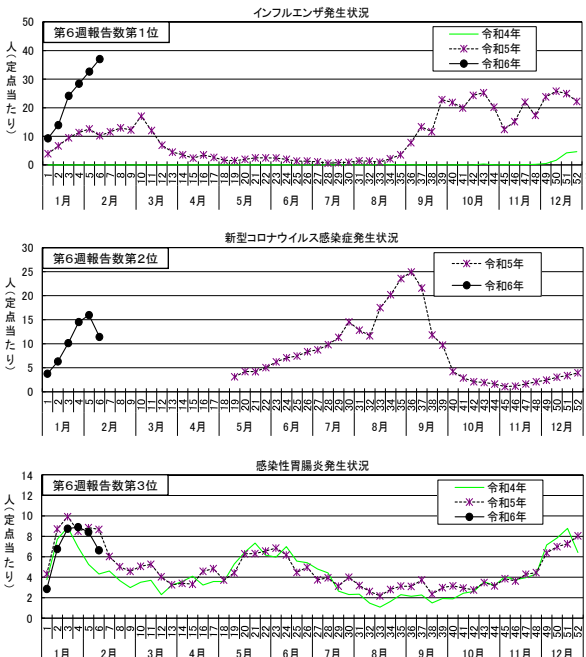
川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）（問合せ先）044-276-8250 令和6年2月6日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年2月5日（月）～令和6年2月11日（日）〔令和6年第6週〕の感染症発生状況

第6週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）新型コロナウイルス感染症 3）感染性胃腸炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は37.03人と前週（32.67人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は11.40人と前週（15.98人）から減少しました。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.64人と前週（8.42人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



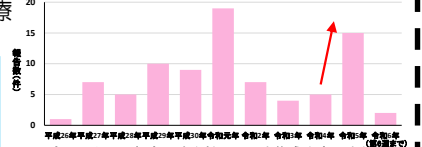
知っていますか？～劇症型溶血性レンサ球菌感染症～

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、主にA群溶血性レンサ球菌を病原体とする細菌感染症です。突然の四肢の痛みや腫れ、発熱等で発症し、急速に症状が進行した後、ショック状態から死に至ることもあります。

川崎市における患者報告数は、令和5年は15件と4年ぶりに大幅に増加し、令和6年も第6週（2月5日～2月11日）までにすでに2件の報告があります。全国でも、令和5年は941件と過去10年間で最も多く、令和6年は第5週（1月29日～2月4日）までに239件の報告がありました。

四肢の痛みや腫れ等が突然出現し、急速な悪化がみられる場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

川崎市における劇症型溶血性レンサ球菌感染症発生状況 -平成26年第1週～令和6年第6週-

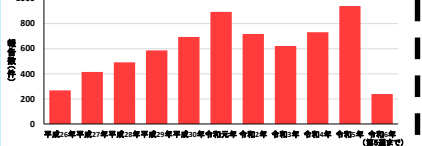


劇症型溶血性レンサ球菌感染症とは？

- 【病原体】主にA群溶血性レンサ球菌
- 【感染経路】創傷感染、飛沫・飛沫核感染、接触感染等
- 【主な症状】
 - 初期症状
 - 四肢の痛み・腫れ、発熱、血圧低下等
 - 進行とともに出現する重篤な症状
 - 軟部組織壊死（皮下組織細胞の壊死）、急性腎不全、多臓器不全、ショック等

早期発見・早期治療が重要です！

全国における劇症型溶血性レンサ球菌感染症発生状況 -平成26年第1週～令和6年第6週-



川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）（問合せ先）044-276-8250 令和6年2月14日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年2月12日(月)～令和6年2月18日(日)〔令和6年第7週〕の感染症発生状況

第7週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) インフルエンザ 2) 新型コロナウイルス感染症 3) 感染性胃腸炎でした。
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は30.08人と前週(37.03人)から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は7.48人と前週(11.48人)から横ばいでした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.78人と前週(6.64人)から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



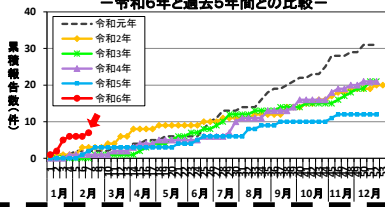
～レジオネラ症の報告数が増加しています！～

レジオネラ症は、水中や土壌中等に生息するレジオネラ属菌を原因とする細菌感染症で、通常は夏から秋にかけて患者報告数が増加します。しかし、川崎市における令和6年のレジオネラ症の報告数は、第7週(2月12日～18日)までに計7件と、冬にもかかわらず増加がみられています。

病型は、重症の肺炎を引き起こすレジオネラ肺炎と、一過性の風邪様症状を呈するポンティアック熱に大別され、レジオネラ肺炎は38℃以上の高熱や咳に加え、意識障害等を伴い重症化する例もみられます。特に高齢者は肺炎を起こす危険性が通常より高く、急速に症状が進行して死に至ることもあります。

治療には早期の抗菌薬投与が有効ですので、発熱や咳に加え呼吸困難や下痢等がみられる場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

川崎市におけるレジオネラ症の累積報告数の推移



川崎市 KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所) (問合せ先) 044-276-8250 令和6年2月20日作成

レジオネラ症とは？

【主な症状】

- レジオネラ肺炎
→発熱、咳、呼吸困難、意識障害、下痢等
- ポンティアック熱(肺炎にならない自然治癒型)
→突然の発熱、インフルエンザ様症状等

【潜伏期間】

2～10日間

【感染経路】

レジオネラ属菌に汚染されたエアロソル(空気中に浮遊している粒子)を吸引することにより感染
 ※浴槽水や加湿器の水等は新しいものを使用し、清潔を保ちましょう。また、高圧洗浄等、エアロソルが発生する作業ではマスクを着用しましょう。
 ※人から人に感染することはありません。



今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年2月19日(月)～令和6年2月25日(日)〔令和6年第8週〕の感染症発生状況

第8週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) インフルエンザ 2) 新型コロナウイルス感染症 3) 感染性胃腸炎でした。
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は22.22人と前週(30.08人)から減少しましたが、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は5.98人と前週(7.48人)から横ばいでした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.19人と前週(4.78人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



「子ども予防接種週間」3月1日(金)～3月7日(木)

令和6年3月1日～3月7日は「子ども予防接種週間」です。予防接種は感染症のり患や重症化を防ぐために行われ、感染症にかかりやすい年齢やワクチンの種類等により、推奨される接種時期が決められています。適切な時期にあらかじめ免疫を獲得しておくことで、集団生活の場での感染拡大等も防ぐことができます。4月からの入園・入学に備え、母子健康手帳で予防接種歴を確認の上、必要な予防接種を早めに済ませておきましょう。

子どもの定期予防接種の種類

- ✓ ロタウイルス感染症(ロタウイルスワクチン)
 - ✓ Hib感染症(ヒブワクチン)
 - ✓ 小児の肺炎球菌感染症(PCV13[™])
 - ✓ B型肝炎(B型肝炎ワクチン)
 - ✓ ジフテリア、百日咳、破傷風、ポリオ(1期: DPT-I PV[™]) (2期: DT)
 - ✓ 結核(BCGワクチン)
 - ✓ 麻しん・風しん(MRワクチン)
 - ✓ 水痘(水痘ワクチン)
 - ✓ 日本脳炎(日本脳炎ワクチン)
 - ✓ ヒトパピローマウイルス感染症(HPVワクチン)
- *令和6年4月1日からDPT-I PVにヒブワクチンを加えたら種混合ワクチンも接種開始予定
 **令和6年4月1日からPCV15も接種開始予定



予防接種に際しての確認事項

- 定期予防接種を受けられる医療機関
川崎市予防接種個別協力医療機関
- 予防接種を受ける時に持っていくもの
①川崎市予防接種予診票
②母子健康手帳
- 予防接種の費用
定期予防接種: 無料
任意予防接種(流行性耳下腺炎、インフルエンザ): 有料*
※医療機関毎に料金は異なります。



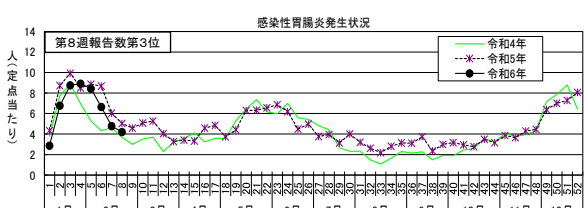
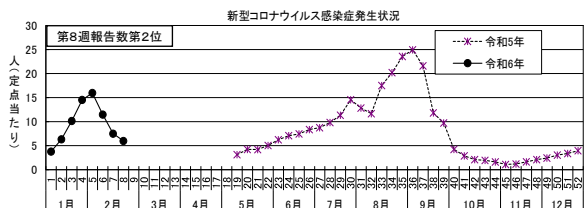
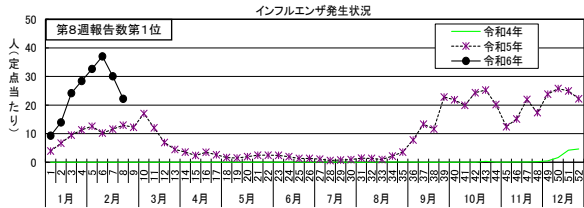
問合せ先

川崎市予防接種コールセンター
 電話番号: 044-200-0142
 受付時間: 午前8時30分～午後5時15分
 月曜日から金曜日(祝日、年末年始除く)

※新型コロナウイルス(臨時予防接種)の無料接種期間は令和6年3月31日までとなっています。

川崎市 KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所) (問合せ先) 044-276-8250 令和6年2月27日作成

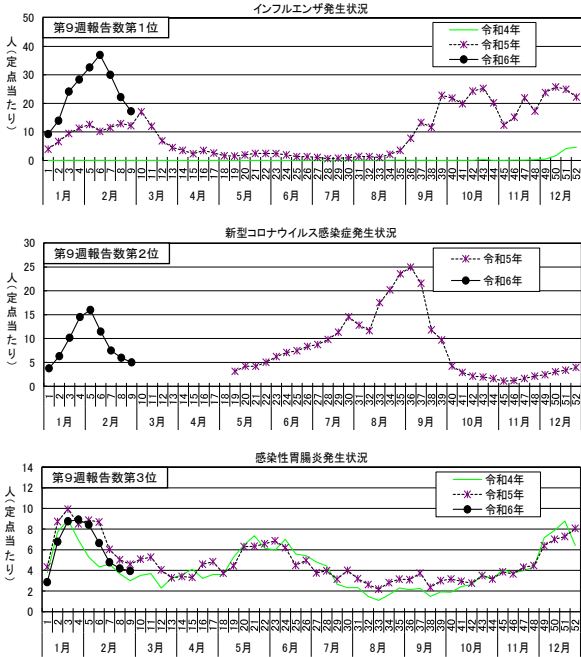
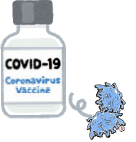


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年2月26日(月)～令和6年3月3日(日)〔令和6年第9週〕の感染症発生状況

第9週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) インフルエンザ 2) 新型コロナウイルス感染症 3) 感染性胃腸炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は17.30人と前週(22.22人)から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は5.00人と前週(5.98人)から横ばいでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.94人と前週(4.19人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



新型コロナワクチンの無料接種が終了します。

現在、無料で実施している新型コロナワクチンの特例臨時接種が、令和6年3月31日に終了します。令和6年4月1日以降は原則有料となり、65歳以上の方及び60～64歳で重症化リスクの高い方に対して、秋冬に年1回の定期接種を実施する予定です。また、対象外の方や定期接種以外で接種を希望する方は、任意接種として自費での接種が可能です。

無料接種の終了に伴い、本市で実施している各種手続きや窓口等も順次終了します。特に接種券の発行申請は令和6年3月15日に終了しますので、希望される方は、早めに手続きをお願いします。

3月中に終了する窓口等	
終了するもの	終了日時
接種券発行申請 ・電話(予約コールセンター) ・申請 ・インターネット申請 ・郵送申請	3月15日(金) 18時
住所外接種届出申請	3月25日(月) 19時
予約コールセンター	3月31日(日) 18時
予約サイト	3月31日(日) 23時59分
接種証明書のスマホアプリ・コンビニ交付	3月31日(日) ※コンビニ交付は23時まで

令和6年度以降の定期予防接種について

【対象者】

- ① 65歳以上の方
- ② 60歳～64歳で
 - ・心臓、腎臓又は呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活が極度に制限される方
 - ・ヒト免疫不全ウイルス(HIV)による免疫の機能に障害があり、日常生活がほとんど不可能な方

【費用】
原則有料

【予約方法】
接種を実施する医療機関に直接問い合わせ

※定期予防接種に関する詳細は、決まり次第川崎市のホームページでお知らせします。



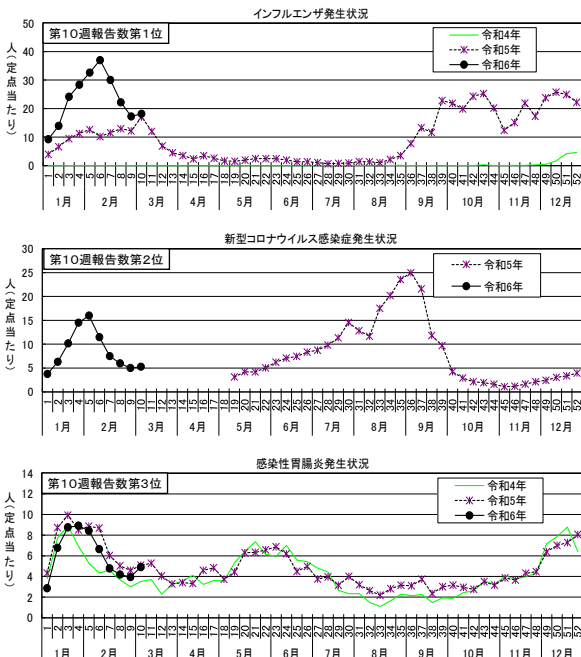
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域みまもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)
(問合せ先) 044-276-8250 令和6年3月5日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年3月4日(月)～令和6年3月10日(日)〔令和6年第10週〕の感染症発生状況

第10週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) インフルエンザ 2) 新型コロナウイルス感染症 3) 感染性胃腸炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は18.18人と前週(17.30人)から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は5.27人と前週(5.00人)から横ばいでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.92人と前週(3.94人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



知っていますか～麻しん(はしか)～

麻しんは、麻しんウイルスを原因とする急性感染症で、免疫のない人が感染するとほぼ100%発症し、約30%に肺炎や脳炎等の合併症がみられます。麻しんを予防するためにはワクチン接種が有効であり、2回接種による免疫獲得率は97%～99%以上とされています。

国内では、麻しんは排除状態であり、近年は渡航先での感染例とその二次感染例のみが報告されています。しかし、全世界的にワクチンの接種率が低下しており、海外では各地で麻しんが発生していることから、今後は国内への輸入例が増加する可能性があります。お子さんの定期予防接種歴を確認し、忘れずに2回の接種をしておきましょう。

麻しんとは？

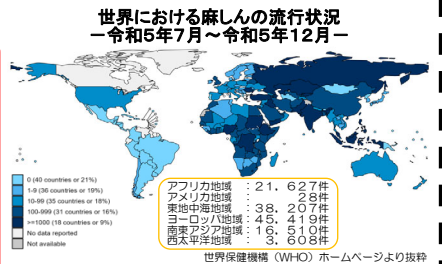
【感染経路】
飛沫感染、接触感染、空気感染

【潜伏期間】
10～12日

【症状】
発熱、咳、鼻汁、発しん、結膜充血等

【合併症】
肺炎、中耳炎、脳炎

【予防対策】
麻しん含有ワクチン(MRワクチン)の接種
※2回接種による免疫獲得率は97～99%以上と報告されています。



麻しん・風しん(MR)定期予防接種の対象者

【第1期】 生後12月から生後24月に至るまでの間にある者

【第2期】 小学校入学期の年度1年間(4月1日～翌年3月31日)



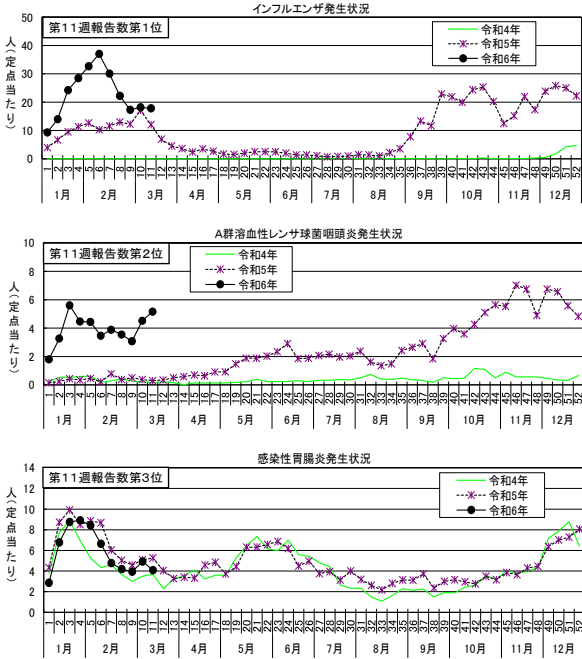
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域みまもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)
(問合せ先) 044-276-8250 令和6年3月12日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年3月11日（月）～令和6年3月17日（日）〔令和6年第11週〕の感染症発生状況

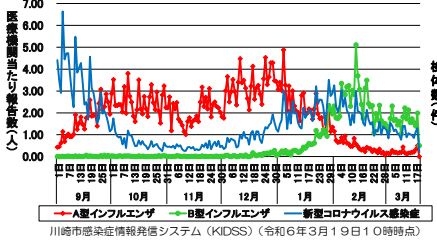
第11週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3）感染性胃腸炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は17.78人と前週（18.18人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は5.17人と前週（4.53人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.08人と前週（4.92人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



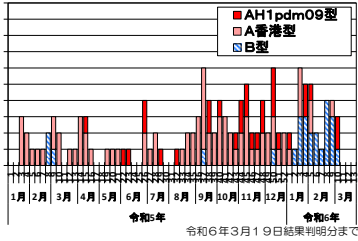
インフルエンザと新型コロナウイルス感染症の流行の現状

川崎市では、A型インフルエンザ、B型インフルエンザ及び新型コロナウイルス感染症のリアルタイムサーベイランスを実施しています。新型コロナウイルス感染症は年末から報告数が増加し、1月下旬にピークを迎えました。その後はやや減少し、現在のところ大きな増減はみられませんが、流行は継続しています。また、インフルエンザは1月中旬までは主にA型が報告されていましたが、現在はB型が主流です。当研究所に搬入された検体からも、年明け以降はA型の検出数は少なく、B型が多く検出されています。いずれの疾患も減少傾向にありますが、流行が継続しているため、発熱等がみられる場合は、症状が軽快するまでは自宅で休養しましょう。

川崎市における新型コロナウイルス感染症及びインフルエンザのリアルタイムサーベイランス医療機関当たり報告数推移（令和5年9月1日～令和6年3月19日診断分）



川崎市におけるインフルエンザウイルス検出状況（令和5年第1週～令和6年第11週）



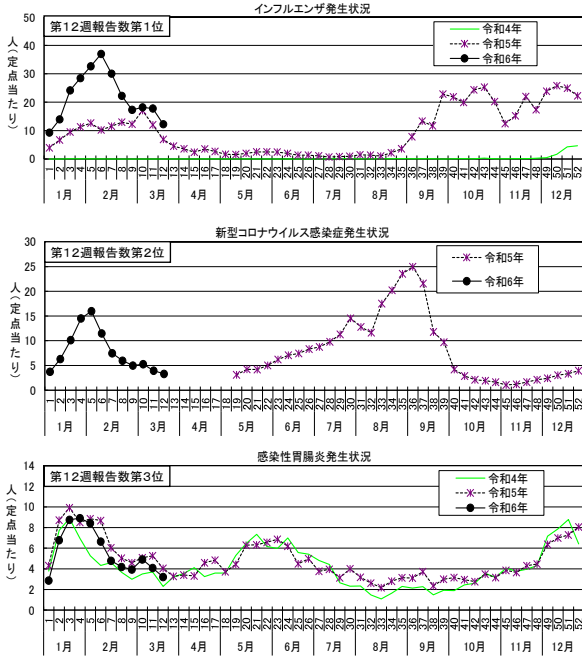
川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和6年3月19日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年3月18日（月）～令和6年3月24日（日）〔令和6年第12週〕の感染症発生状況

第12週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）新型コロナウイルス感染症 3）感染性胃腸炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は12.25人と前週（17.78人）から減少しましたが、例年よりかなり高いレベルで推移しています。新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は3.30人と前週（3.95人）から横ばいでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.22人と前週（4.08人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



新年度から健康に過ごすために！

新年度を迎え、学校や保育園等で新たに集団生活が始まると、人との接触の機会が増加するため、感染症にかかる可能性が高くなります。市内では、昨年からインフルエンザやA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の流行が継続しているほか、RSウイルス感染症は、例年より早い時期から報告がみられています。手洗い等の基本的な感染対策を実施するとともに、免疫力を高めるために、適切な睡眠や食事等も心掛けましょう。

また、麻しんや風しん等ワクチン接種により防ぐことができる感染症もあります。定期予防接種は、ワクチンの種類によって対象年齢が決められているため、母子健康手帳に接種の記録がない場合は、対象期間内に忘れずに接種を受けましょう。

感染症にかからないために気をつけたいこと

- ① 予防接種
- ② 手洗い
- ③ マスクの適切な着用
- ④ 十分な睡眠
- ⑤ バランスのとれた食事

麻しん風しんの定期接種（MRワクチン）を期間内に受けられなかった方へ

川崎市では、麻しん風しんの第1期及び第2期の定期予防接種を期間内に受けられなかった場合、事前に申請することで、無料で任意接種を受けることができます。

- 【対象者】（川崎市に住民登録のある方）
- ・第1期分：2歳から3歳に至るまでの間にあるお子さん
 - ・第2期分：小学校1年生のお子さん
（6歳以上8歳未満であって、小学校就学の始期の属する年度の初日から当該年度の末日までの間にあるお子さん）

※申請方法等の詳細は川崎市ホームページを御確認ください。

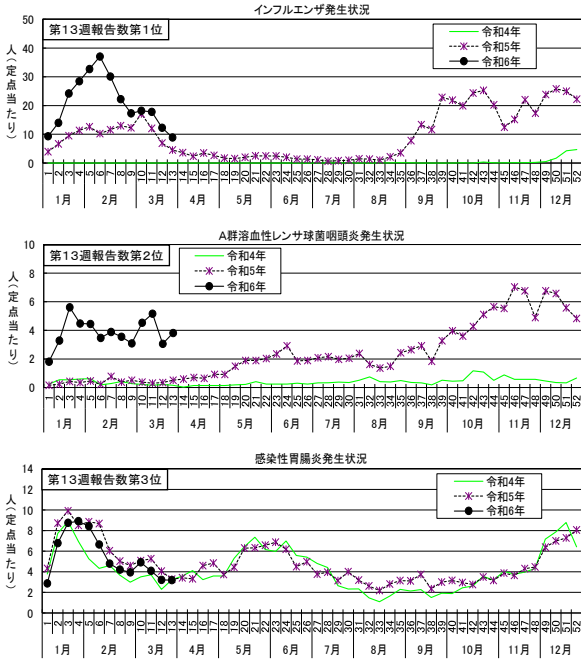
川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和6年3月26日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年3月25日（月）～令和6年3月31日（日）〔令和6年第13週〕の感染症発生状況

第13週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) インフルエンザ 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 感染性胃腸炎でした。
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は、8.85人と前週（12.25人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は、3.81人と前週（3.05人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は、3.19人と前週（3.22人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



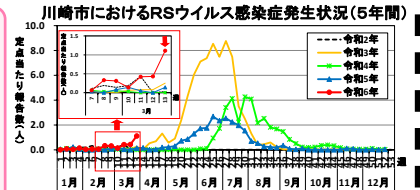
RSウイルス感染症の報告数が徐々に増加しています！

川崎市におけるRSウイルス感染症の定点当たり報告数は、令和6年第13週（3月25日～31日）に1.11人となり、第8週（2月19日～25日）以降、徐々に増加しています。以前は秋から冬にかけて流行していましたが、ここ数年は流行時期が早くなる傾向があり、特に今年は3月にもかかわらず報告数の増加がみられています。

RSウイルス感染症は、2歳までにほとんどの小児が感染するとされ、発熱、咳、鼻汁等の症状を呈します。多くは数日で軽快しますが、生後6か月以内の乳児や基礎疾患を有する小児は、細気管支炎や肺炎等を起こし重症化することもあります。お子さんの咳がひどい場合や熱が続く時、また、息が苦しそうなお場合は、早めに医療機関に御相談ください。

RSウイルス感染症とは

- 【感染経路】 飛沫感染、接触感染
- 【潜伏期間】 2～8日（典型的には4～6日）
- 【症状】 発熱・咳・鼻汁等の風邪様症状
- 【予防対策等】
 - ・おもちゃ、手すり等の消毒
 - ・流水とせっけんによる手洗い
 - ・体調不良の大人はマスク着用



RSウイルス感染症の重症化リスクが高い方

- 早産児や生後2.4か月以下で心肺に基礎疾患を有する小児
- 神経・筋疾患又は免疫不全の基礎疾患を有する小児
- 生後6か月以内の乳児



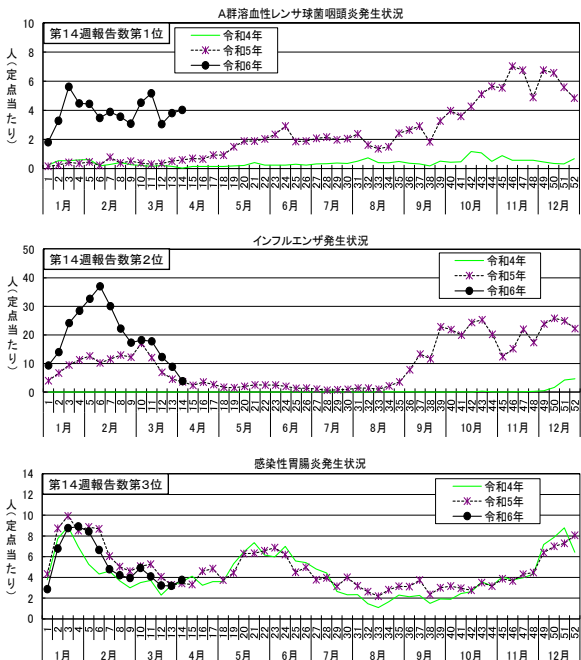
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問合せ先）044-276-8250 令和6年4月2日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年4月1日（月）～令和6年4月7日（日）〔令和6年第14週〕の感染症発生状況

第14週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 2) インフルエンザ 3) 感染性胃腸炎でした。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は、4.03人と前週（3.81人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は、3.80人と前週（8.85人）から減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は、3.76人と前週（3.19人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



ワクチンで防ぐことができる感染症（VPD）とは？

VPDとは、ワクチンで防ぐことができる感染症の総称です。VPDには、定期予防接種の対象である「ジフテリア・百日咳・破傷風・ポリオ」（4種混合ワクチン）、「麻しん（はしか）・風しん（MRワクチン）」等があります。特に、麻しんや風しん、ポリオについてはワクチンの有効性が高く、接種を完了することで、98～99%の方が感染を防ぐことができます。

国内では、令和6年4月から、4種混合ワクチンにHibワクチンが追加された5種混合ワクチンが定期接種に導入されましたが、従来のワクチンも、5種混合ワクチンも、接種を完了した場合の有効性は同等です。いずれも感染症の発症を防ぐとともに、感染症に伴う髄膜炎等の発症も予防できますので、接種対象者の方は母子健康手帳を確認の上、是非接種を御検討ください。

ごんやにあいます！～小児のVPDとワクチン～

- 定期予防接種
 - ✓ rotaウイルス感染症（ロタウイルスワクチン）
 - ✓ 肺炎球菌感染症（PCV15）
 - ✓ B型肝炎（B型肝炎ワクチン）
 - ✓ ジフテリア、百日咳、破傷風、ポリオ、Hib感染症（1期：DPT-I PV-Hib）（2期：DT）
 - ✓ 結核（BCGワクチン）
 - ✓ 麻しん・風しん（MRワクチン）
 - ✓ 水痘（水痘ワクチン）
 - ✓ 日本脳炎（日本脳炎ワクチン）
 - ✓ ヒトパルボウイルス感染症（HPVワクチン）
- 任意予防接種
 - ✓ 季節性インフルエンザ（インフルエンザワクチン）
 - ✓ 新型コロナウイルス感染症（新型コロナワクチン）
 - ✓ 流行性耳下腺炎（ムンプスワクチン）

5種混合ワクチンについて

- 対象者：接種日時時点で川崎市に住み登録がある、生後2月から生後9.0月に至るまでの間にある者
 ＊すでに4種混合ワクチン及びHibワクチンの接種を開始している場合は、原則4種混合ワクチン及びHibワクチンで接種を完了してください。
- 実施場所：市内の予防接種個別協力医療機関
- 接種費用：無料
- 標準的な接種スケジュール及び接種回数
 初回接種：生後2月から生後7月に至るまでに開始し、4週間から8週間までの間隔において3回接種
 追加接種：初回接種終了後6月から18月までの間隔において1回接種
 ※申請方法等の詳細は川崎市ホームページを御確認ください。



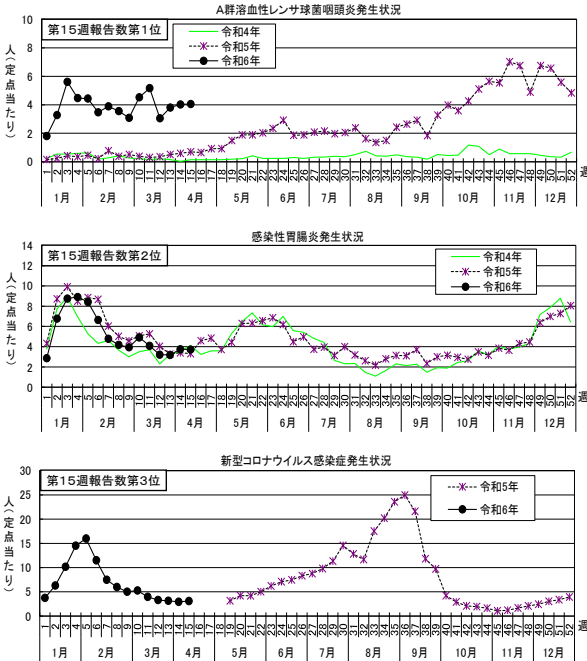
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問合せ先）044-276-8250 令和6年4月9日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年4月8日（月）～令和6年4月14日（日）〔令和6年第15週〕の感染症発生状況

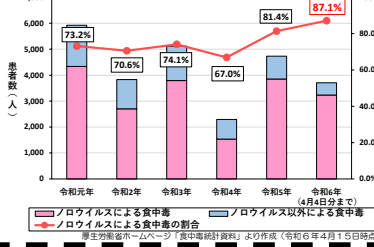
第15週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 2）感染性胃腸炎 3）新型コロナウイルス感染症でした。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は、4.05人と前週（4.03人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は、3.73人と前週（3.76人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は、3.08人と前週（2.92人）から横ばいでした。



ノロウイルスによる感染性胃腸炎に御注意ください！

ノロウイルスは食中毒の原因となる代表的なウイルスです。令和6年は全国において、4月4日までに計3710人の食中毒患者が報告されていますが、そのうち3232人（87.1%）がノロウイルスによる食中毒の患者であり、現時点では過去5年間の同時期において、最も高い割合となっています。ノロウイルスに感染すると下痢や嘔吐等の症状を呈し、通常2～3日で回復しますが、乳幼児や高齢者、免疫不全の方等では重症化することもあります。汚染された食品の喫食による食中毒以外に、感染者からの飛沫・接触による感染や、感染者が調理した食品を介した感染、吐物等が乾燥し舞上がったウイルスが口に入ることによる感染もあります。感染力が非常に強いいため、トイレの後や調理の前等には必ず石けんで手を洗う等予防対策を徹底しましょう。

全国における過去5年間と令和6年の食中毒患者の発生状況の比較（1月から4月分まで）



ノロウイルスによる感染性胃腸炎の予防対策

- ・トイレの後や調理の前等には必ず石けんで手を洗う。
- ・食材は中心部まで十分に加熱する。（85～90℃で90秒以上）
- ・まな板等の調理器具は使用の都度、洗浄、消毒する。
- ・嘔吐物や便等を処理する場合には適切に消毒し、直接手で触れない。
- ・消毒の際は塩素系漂白剤や熱湯を使用する。

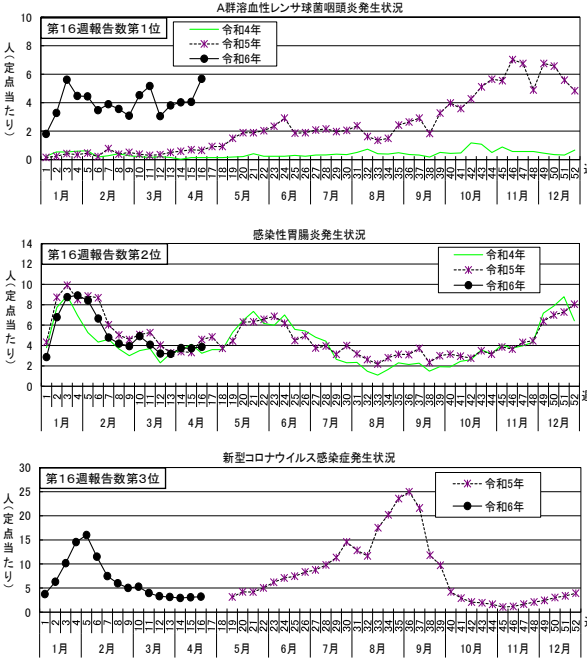
川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
発行 令和6年4月16日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年4月15日（月）～令和6年4月21日（日）〔令和6年第16週〕の感染症発生状況

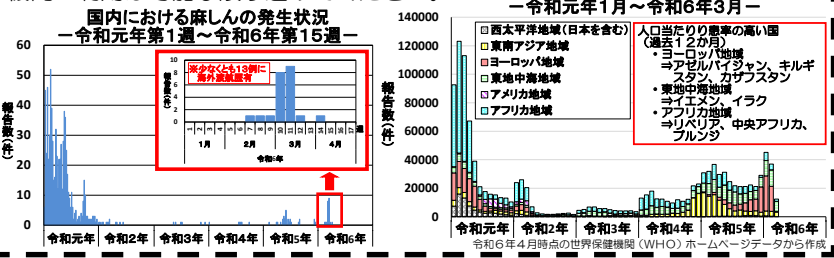
第16週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 2）感染性胃腸炎 3）新型コロナウイルス感染症でした。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は、5.68人と前週（4.05人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は、3.86人と前週（3.73人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は、3.20人と前週（3.08人）から横ばいでした。



麻しん（はしか）の流行地域に渡航する際は御注意を！

麻しんは、麻しんウイルスを原因とする急性感染症で、感染すると発熱や咳、鼻汁、発しん等の症状を呈します。麻しんウイルスは感染力が非常に強く、空気感染を含む多様な経路で感染し、麻しん含有ワクチンを未接種の方や麻しんに対する免疫が不十分な方等が感染すると、高い確率で発症します。

令和4年以降、国外では麻しんの報告数が再び増加しており、特に東ヨーロッパ、アフリカ及び中東の一部の国では大きな流行がみられています。国内では麻しんは排除状態ですが、今年は輸入例及び帰国例を起端とした患者が複数報告されています。流行地域に渡航される方は、滞在中や帰国後の体調変化に注意し、疑わしい症状が出現した際は医療機関に電話等で相談しましょう。なお、麻しんが疑われる場合、医療機関への移動時はマスクを着用し、公共交通機関の利用は可能な限り避けてください。



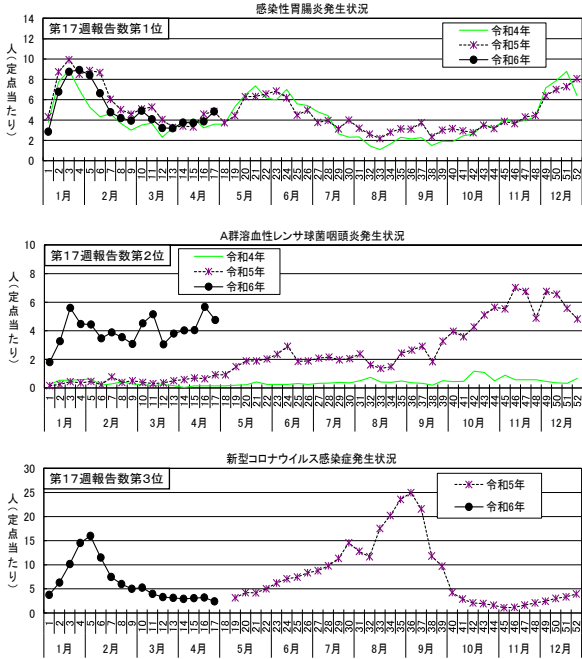
川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
発行 令和6年4月23日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年4月22日（月）～令和6年4月28日（日）〔令和6年第17週〕の感染症発生状況

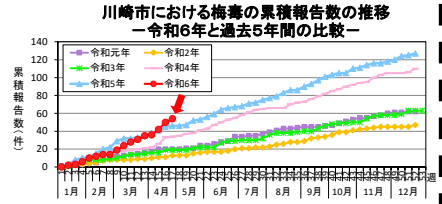
第17週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3）新型コロナウイルス感染症でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は、4,84人と前週（3,86人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は、4,76人と前週（5,68人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は、2,39人と前週（3,20人）から減少しました。



梅毒の報告数が増加！～先天梅毒に要注意～

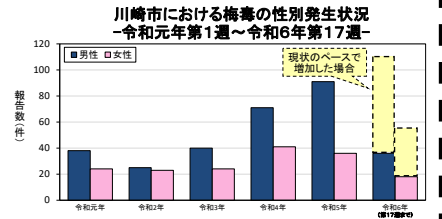
川崎市における梅毒の報告数は、今年は第17週（4月22日～28日）までに54件となり、過去最多となった昨年の同時期を上回っています。現状のペースで増加すると、男女ともに過去最高の報告数になると予測されます。

梅毒は抗菌薬治療が非常に有効ですが、治療が十分に行われないと、長期間の経過で心臓等に重大な合併症を起こすことがあります。また、妊婦が感染すると、早産や流産の原因となったり、お子さんが先天梅毒を発症する可能性があります。お子さんを守るためには、定期的な妊婦健診等で早期に発見し、適切な時期に治療を行うことが重要です。



川崎市における梅毒の累積報告数の推移
～令和6年と過去5年間の比較～

【先天梅毒について】
【症状】
 出生時は無症状のことが多い。
 早期先天梅毒（生後数か月以内に発症）
 皮膚症状、鼻炎、肝脾腫、骨軟骨炎等
 晩期先天梅毒（多くは2歳以上で発症）
 実質性角膜炎、感音性難聴、歯牙変形等
【予防】
 母の妊婦健診等による早期発見、早期治療
【治療】
 抗菌薬治療



川崎市における梅毒の性別発生状況
～令和元年第1週～令和6年第17週～

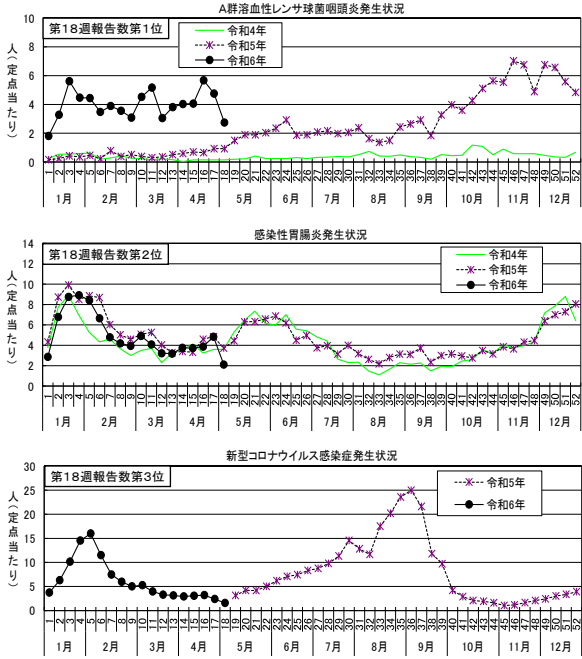
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問合せ先）044-276-8250 令和6年5月1日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年4月29日（月）～令和6年5月5日（日）〔令和6年第18週〕の感染症発生状況

第18週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 2）感染性胃腸炎 3）新型コロナウイルス感染症でした。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は、2,74人と前週（4,76人）から減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は、2,12人と前週（4,84人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は、1,58人と前週（2,39人）から減少しました。



帰国後の体調不良に注意しましょう！

ゴールデンウィークに海外へ渡航された方も多いと思います。帰国後に体調不良を訴える方は比較的多いとされており、特に発熱や下痢等がよくみられる症状です。感染症による症状は帰国後3週間以内にみられることがほとんどですが、数週間から数か月後に発症する場合もあります。国内で発生していない感染症に罹患している可能性もありますので、体調がすぐれない場合は早めに医療機関を受診しましょう。なお、受診の際には、適切な診断を受けるため、症状の他に渡航先や渡航期間、渡航中の行動等を医療機関にお伝えください。

<p>発熱 発展途上国から帰国した人の2～3%に発熱がみられるといわれています。自然におさまることもあります。急速に進行し命に関わる感染症もあります。</p> <p>発熱＋関節痛、筋肉痛、頭痛等がみられる感染症 デング熱、マラリア、腸チフス等</p> <p>発熱＋呼吸器症状がみられる感染症 鳥インフルエンザ、中東呼吸器症候群（MERS）等</p> <p>発熱＋皮しんがみられる感染症 麻疹、風しん、デング熱、腸チフス等</p> <p>発熱＋何らかの神経症状がみられる感染症 狂犬病、ダニ媒介性脳炎、慢性的髄膜炎菌感染症等</p>	<p>下痢 海外旅行に行った人の半数以上が旅行先で下痢症状を呈するとされています。多くは数日でおさまりますが、原因によっては長引くこともあります。</p> <p>急性症状として下痢がみられる感染症 コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症等</p> <p>慢性症状として下痢がみられる感染症 ジアルジア症、アメーバ赤痢、クリプトスポリジウム症等</p> <p>全身症状の一症状として下痢がみられる感染症 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）、ウイルス性出血熱等</p>
---	---

一般社団法人日本感染症学会「症状からアブローチするインバウンド感染症への対応 感染症クイック・リファレンス」より作成
 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問合せ先）044-276-8250 令和6年5月8日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年5月6日（月）～令和6年5月12日（日）【令和6年第19週】の感染症発生状況

第19週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 2) 感染性胃腸炎 3) 流行性角結膜炎でした。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は、2,95人と前週(2,74人)から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は、2,62人と前週(2,12人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は、2,11人と前週(0,25人)から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



手足口病の報告数が徐々に増加しています！

手足口病はエンテロウイルスやコクサッキーウイルス等、複数のウイルスを原因とする感染症で、例年初夏に報告数が増加し、夏季にピークを迎えます。川崎市における定点当たり報告数は、令和6年第19週(5月6日～12日)に0,32人と、第17週(4月22日～28日)以降やや増加しており、今後更に増加する可能性もあります。

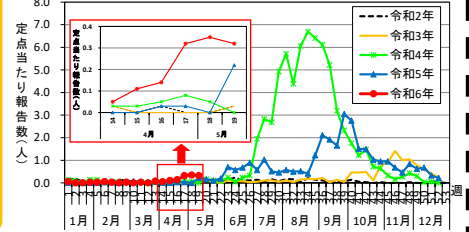
手足口病は、手のひらや足の裏、口腔内等に水疱性の発疹が現れますが、ほとんどの場合は数日で軽快します。しかし、原因ウイルスの種類によっては重症化し、髄膜炎や脳炎等の合併症を引き起こすこともあります。

手足口病は飛沫感染や接触感染により感染し、原因ウイルスは症状改善後も1か月程度は便から排泄されるといわれています。感染予防のためにも、これからの季節は日頃から手洗いを徹底することが重要です。

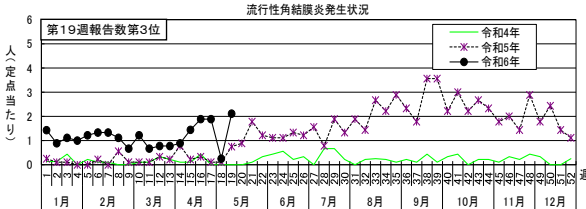
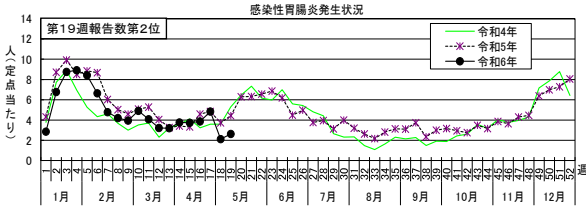
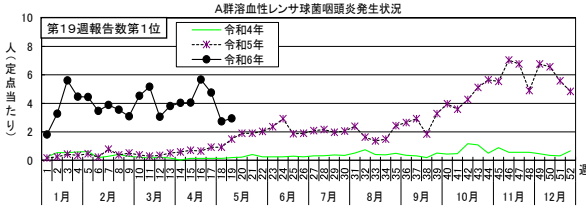
手足口病とは

- 病原体**：コクサッキーウイルス、エンテロウイルス、エコーウイルス等
- 感染経路**：飛沫感染、接触感染、糞口感染
- 潜伏期間**：3～5日
- 典型的な症状**：軽度の発熱、手掌、足底・足背及び口腔内の粘膜などに水疱性の発疹
- 予防対策**：手指衛生、排泄物等の適切な処理、タオルなどの共有は避ける。

川崎市における手足口病発生状況(5年間)



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)
(問合せ先) 044-276-8250 令和6年5月14日作成



今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年5月13日（月）～令和6年5月19日（日）【令和6年第20週】の感染症発生状況

第20週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 2) 感染性胃腸炎 3) 新型コロナウイルス感染症でした。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は、4,51人と前週(2,95人)から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は、3,89人と前週(2,62人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は、3,41人と前週(1,70人)から増加しました。



知っていますか？～百日咳～

百日咳は、特有のけいれん性の咳発作等が現れる細菌感染症です。かぜ症状で発症し、徐々に咳が強くなり、短い咳が連続的に起こるようになります。激しい咳は2～3週間程度消失しますが、その後も発作性の咳がみられ、回復にはさらに2週間程度必要です。成人は軽症の場合が多く、百日咳と認識されないまま、親や兄弟等が感染源となることがあります。特に免疫のない乳幼児は、呼吸停止等の重篤な症状を起こし死亡する場合もあるため、予防が重要です。

百日咳の予防にはワクチン接種が有効ですので、定期予防接種のスケジュールを確認し、対象期間内に百日咳含有ワクチンを接種しましょう。

百日咳とは？

- 【感染経路】**
咳やくしゃみ等による飛沫感染、接触感染
- 【潜伏期間】**
通常5～10日間(最大3週間程度)
- 【主な症状】**
 - ①カタル期：5～10日間の潜伏期間の後、かぜ様症状で始まり、次第に咳の回数が増えて程度も激しくなる。
 - ②咳期：短く激しい咳が連続して起こり、息を吸う時に笛のような音が出る特有の咳発作がみられる。
 - ③回復期：激しい咳が消失した後も、発作性の咳が続く。
- 【予防方法】**
百日咳含有ワクチンの接種(5種混合ワクチン等)

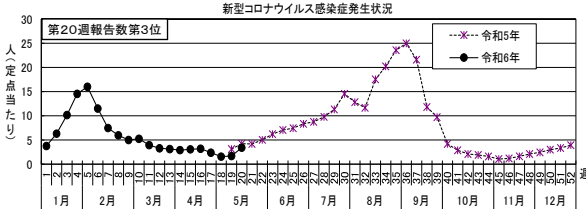
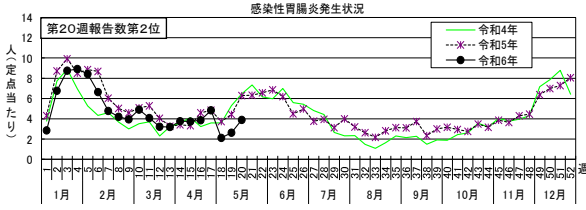
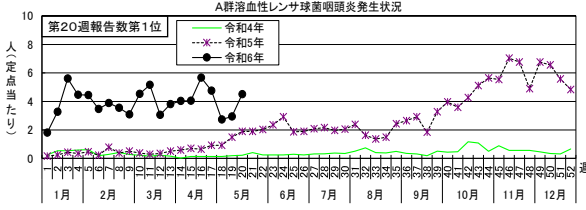


乳幼児の症状に要注意！

乳幼児は咳のために呼吸ができなくなり、チアノーゼ(全身が青紫色になること)がみられたり、乳児期早期では特徴的な咳がみられず、無呼吸状態から呼吸停止となることがあります。

百日咳含有ワクチンの定期接種について(5種混合ワクチンを使用する場合)

- <対象者>**
接種日時点で川崎市に住民登録がある、生後2月から生後90月に至るまでの間にある者
- <標準的な接種スケジュール>**
初回接種：生後2月から生後7月までの期間に、20日から56日までの間隔をおいて3回接種
追加接種：初回接種終了後6月から18月までの間隔をおいて1回接種



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)
(問合せ先) 044-276-8250 令和6年5月21日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年5月20日（月）～令和6年5月26日（日）〔令和6年第21週〕の感染症発生状況

第21週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3）新型コロナウイルス感染症でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.17人と前週（3.89人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.83人と前週（4.51人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は3.28人と前週（3.41人）から横ばいでした。



こんな病気知っていますか？～レジオネラ症～

レジオネラ症は、例年夏から秋にかけて報告数が増加する傾向がありますが、今年は第21週（5月20日～26日）までに既に計11件と、過去5年間で最も多くなっています。

主な病型として、肺炎を引き起こすレジオネラ肺炎と、一過性のかぜ様症状を呈するポンティアック熱があり、レジオネラ肺炎は38℃以上の高熱や呼吸困難に加え、下痢等の消化器症状や意識障害等の中枢神経症状もみられます。特に高齢者は肺炎を起こす危険性が高く、適切な治療がなされなかった場合には、命にかかわることもあります。抗菌薬による治療が有効ですので、高熱や咳等が続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

レジオネラ症とは？

【主な症状】

- レジオネラ肺炎
 - ⇒発熱、咳、呼吸困難、意識障害、下痢等
- ポンティアック熱（肺炎にならない自然治癒型）
 - ⇒突然の発熱、インフルエンザ様症状等

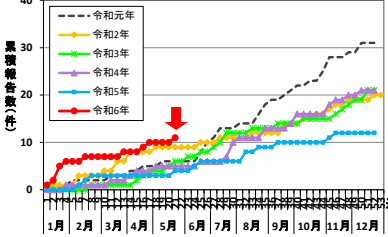
【潜伏期間】

2～10日間

レジオネラ菌に汚染されたエアロゾル（空气中に浮遊している粒子）を吸引することにより感染
 ※お風呂や加湿器の水等は新しいものを使用し、清潔を保ちましょう。
 ※人から人に感染することはありません。
 ※エアロゾルが発生する作業ではマスクを着用しましょう。

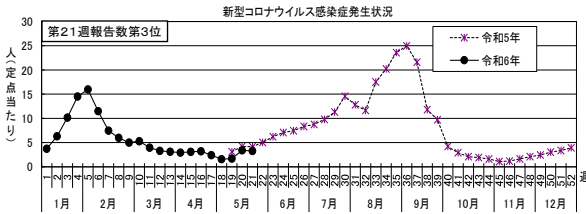
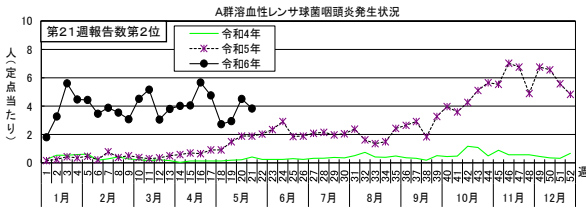
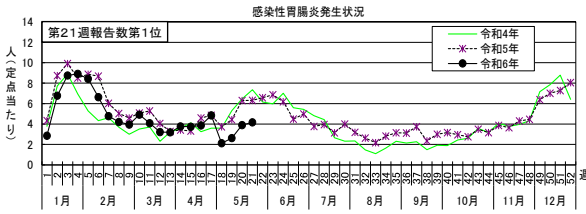


川崎市におけるレジオネラ症の累積報告数の推移
 令和6年と過去5年間との比較



川崎市
 KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問合せ先）044-276-8250 令和6年5月28日作成



今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年5月27日（月）～令和6年6月2日（日）〔令和6年第22週〕の感染症発生状況

第22週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 2）感染性胃腸炎 3）新型コロナウイルス感染症でした。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は5.56人と前週（3.83人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.78人と前週（4.17人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は3.28人と前週（3.28人）から横ばいでした。



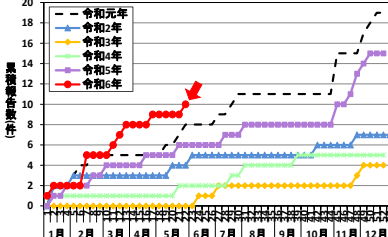
劇症型溶血性レンサ球菌感染症に御注意ください！

劇症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）は、溶血性レンサ球菌を病原体とする感染症です。発熱や咽頭痛に加え、四肢の痛みや腫れ等がみられた後、急速に症状が進行して、ショック状態から死に至ることもあります。

川崎市においては、令和6年第22週（5月27日～6月2日）までに計10件と、過去5年間の同時期と比較して最大の報告数となっています。

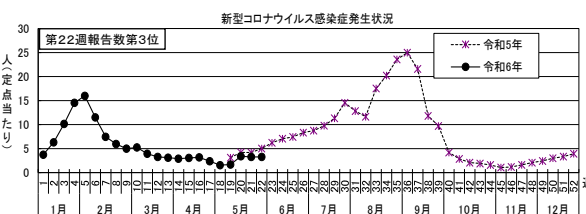
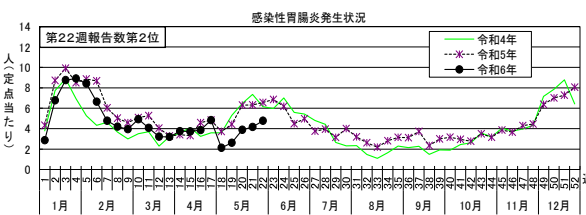
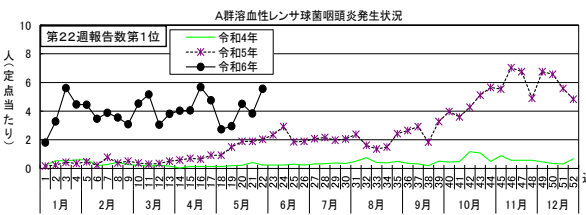
また、原因菌の1つであるA群溶血性レンサ球菌のうち、病原性や感染性が高いとされるM1 UK系統株が、近年世界的に増加しています。市内でも、検査結果が判明している9件中4件から、M1 UK系統株が検出されています。STSSは発症早期の抗菌薬による治療が有効ですので、疑わしい症状がある場合は早めに医療機関に相談するようにしましょう。

川崎市における劇症型溶血性レンサ球菌感染症の累積報告数の推移—令和6年と過去5年間との比較—



川崎市
 KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問合せ先）044-276-8250 令和6年6月4日作成



劇症型溶血性レンサ球菌感染症について

【病原体】

溶血性レンサ球菌（A群、G群等）

【感染経路】

創傷感染、飛沫感染、接触感染等

【主な症状】

・初期症状

発熱、咽頭痛、四肢の痛み・腫れ等

・進行とともに出現する症状

軟部組織病変、循環不全、呼吸不全等

A群溶血性レンサ球菌は、小児の急性咽頭炎の原因となることとあります。

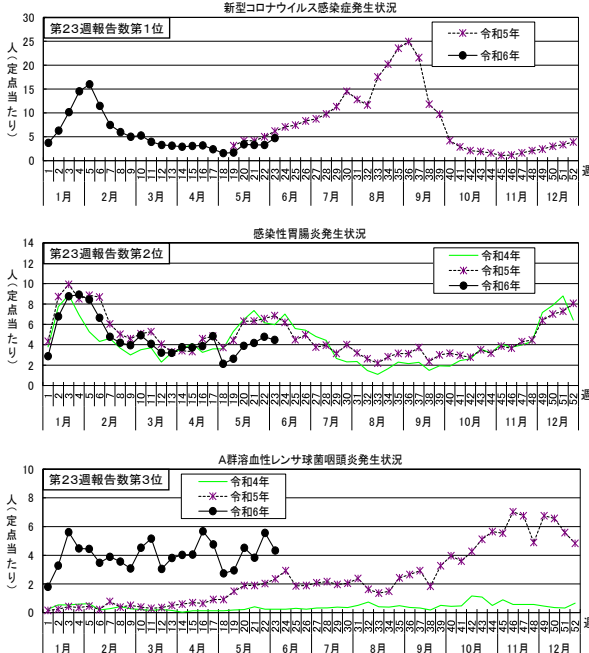


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年6月3日（月）～令和6年6月9日（日）〔令和6年第23週〕の感染症発生状況

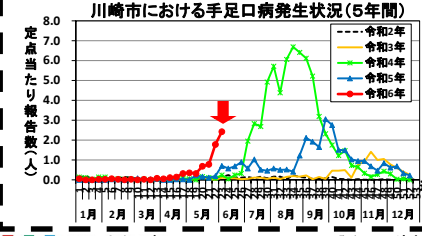
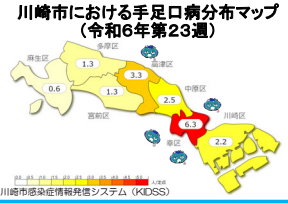
第23週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）新型コロナウイルス感染症 2）感染性胃腸炎 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は、4.72人と前週（3.28人）から増加しました。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は、4.47人と前週（4.78人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は、4.33人と前週（5.56人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



手足口病の地域的な流行がみられています！

川崎市における令和6年第23週（6月3日～9日）の手足口病の患者報告数は定点当たり2.42人と、4週連続で増加しました。区別では、幸区が6.25人と流行発生警報基準値（定点当たり5.00人）を超えています。手足口病は手や足、口等に水疱性の発しんが現れる疾患で、基本的に予後は良好ですが、髄膜炎等を合併することもあります。また、症状消失後一時的に手足の爪が剥がれてしまう場合もありますが、自然に治るとされています。

主な感染経路は飛沫感染や接触感染ですので、日頃からの手洗いやタオルの共用を避ける等の予防対策が重要です。なお、症状改善後も1か月程度はウイルスが便から排泄されるといわれていますので、症状が消失した後も排泄物等の処理の際は気をつけましょう。



手足口病の予防対策

排泄物等を適切に処理する。

流水とせっけんで十分に手を洗う。

タオルの共用は避ける。

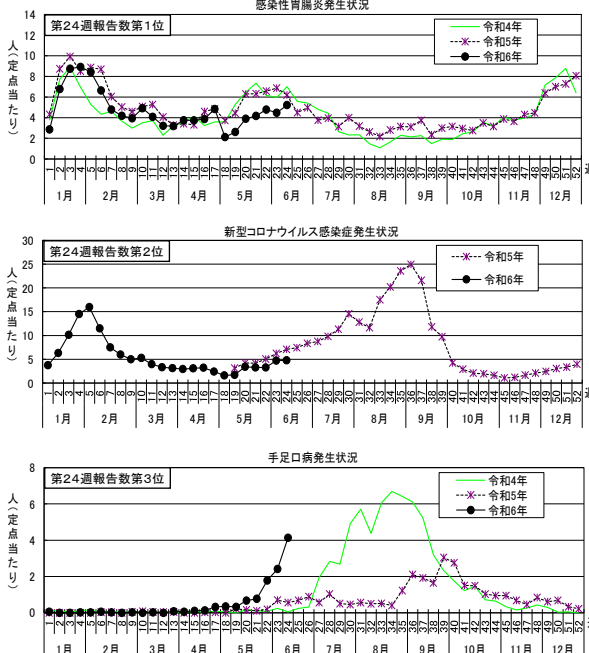
川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和6年6月11日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年6月10日（月）～令和6年6月16日（日）〔令和6年第24週〕の感染症発生状況

第24週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）新型コロナウイルス感染症 3）手足口病でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は、5.22人と前週（4.47人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は、4.78人と前週（4.72人）から横ばいでした。手足口病の定点当たり患者報告数は、4.14人と前週（2.42人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



こんな病気知っていますか？～デング熱～

デング熱は、デングウイルスを持っている蚊に刺されることで発症する感染症です。突然の発熱に続き、頭痛や筋肉痛、発しんなどの症状を呈した後、通常は1週間程度で軽快します。しかし、まれに発熱の2～7日後に出血症状（デング出血熱）やショック症状（デングショック症候群）が出現し、適切な治療が行われなければ死に至ることもあります。

令和5年以降、世界的にデング熱の患者数が急増しており、特に中南米及び東南アジアの一部の国を中心に大きな流行がみられています。流行国に渡航する場合は事前に流行状況を確認の上、虫よけ剤を使用する、できる限り肌の露出を控えるなど、蚊に刺されないように注意しましょう。

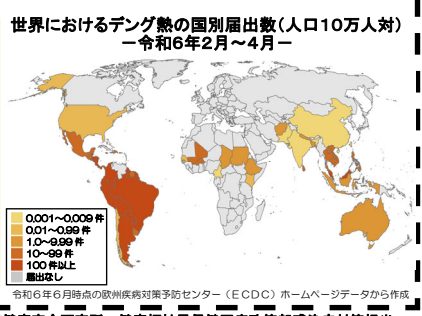
デング熱とは？

【病原体】デングウイルス

【感染経路】デングウイルスを保有する蚊（ネッタイシマカ、ヒトスジシマカ）に刺されることで感染
※人から人に感染することはありませんが、デングウイルスに感染している人が蚊に刺されると、蚊を介して感染が広がる可能性があります。

【潜伏期間】2～14日（多くは3～7日）

【症状】突然の発熱、頭痛、関節・筋肉痛、発しん等
※まれに出血症状が出現し、重症化することもあります。



川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和6年6月18日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年6月17日（月）～令和6年6月23日（日）〔令和6年第25週〕の感染症発生状況

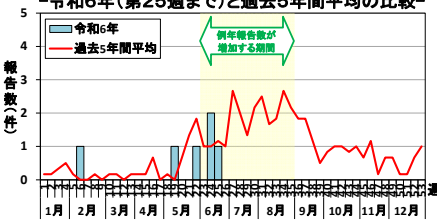
第25週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 新型コロナウイルス感染症 2) 手足口病 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は5、10人と前週（4、78人）から増加しました。
 手足口病の定点当たり患者報告数は4、89人と前週（4、14人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3、89人と前週（3、58人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。



腸管出血性大腸菌感染症に御注意ください！

腸管出血性大腸菌感染症は、強い毒素を産生する大腸菌を原因とする感染症です。主な症状は、激しい腹痛、下痢及び血便ですが、溶血性尿毒症症候群（HUS）や脳症等の重篤な合併症を引き起こし、命に関わることもあります。
 腸管出血性大腸菌は気温や湿度の上昇に伴い増殖が活発になるため、例年夏季に患者報告数が増加します。川崎市においては、令和6年第25週（6月17日～23日）までに計6件の報告があり、今後更に増加する可能性もあります。感染力が非常に強く少ない菌数でも感染するため、食材の十分な洗浄・加熱及び適切な保管等の予防対策が重要です。
 また、患者の便を介した二次感染も起こりますので、食事の前や排便後は手指衛生を徹底しましょう。

川崎市における腸管出血性大腸菌感染症の発生状況



腸管出血性大腸菌感染症の予防対策

- 食中毒予防
 - ✓生肉や加熱不十分な肉の喫食は避け、肉類は中心部まで十分に加熱する。（75℃、1分間以上）
 - ✓肉を焼く際には、専用の器具（箸やトングなど）を使用する。
 - ✓生で食べる野菜は流水でよく洗う。
 - ✓まな板は、使用の都度洗剤を使用して洗浄する。
 - ✓食品は適切な温度で保管する。
- 二次感染予防
 - ✓食事の前、排便後は手洗い、手指消毒を徹底する。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問合せ先）044-276-8250 令和6年6月25日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年6月24日（月）～令和6年6月30日（日）〔令和6年第26週〕の感染症発生状況

第26週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 手足口病 2) 新型コロナウイルス感染症 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は7、72人と前週（4、89人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。
 新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は7、17人と前週（5、10人）から増加しました。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3、19人と前週（3、89人）から減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。

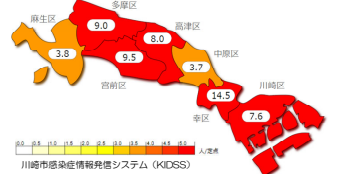


手足口病の流行発生警報が発令されました！

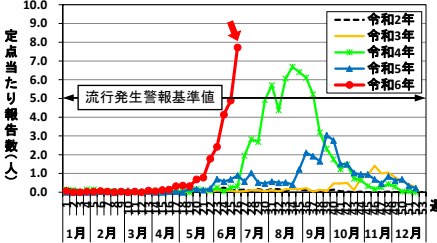
川崎市における令和6年第26週（6月24日～6月30日）の手足口病の患者報告数は定点当たり7、72人となり、流行発生警報基準値（定点当たり5、00人）を超えました。区別では、幸区が定点当たり14、50人と最も多く、次いで宮前区が9、50人となっています。また、年齢階級別では、3歳以下の乳幼児の報告が8、2%と最多でした。

手足口病は、主に手足や口の中に発しんが出現する疾患で、数日で軽快することがほとんどですが、まれに髄膜炎等を合併する場合があります。保育園等では集団感染を起こすこともあるため、予防対策を徹底し、感染拡大を防ぎましょう。

川崎市における手足口病分布マップ(第26週)



川崎市における手足口病発生状況(5年間)



手足口病の予防対策

- 流水と石けんで十分に手を洗う。
- おむつ交換の際には排泄物を適切に処理する。
- タオルの共用は避ける。



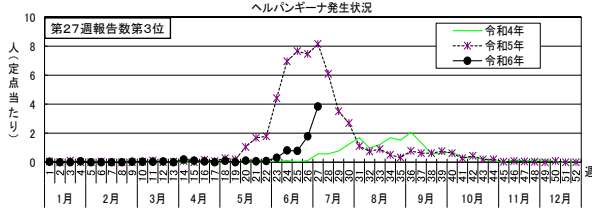
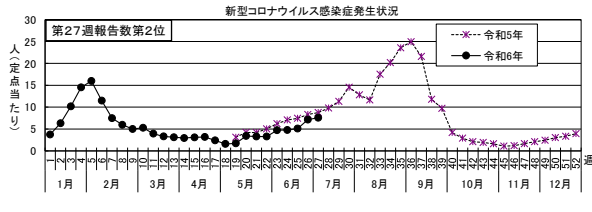
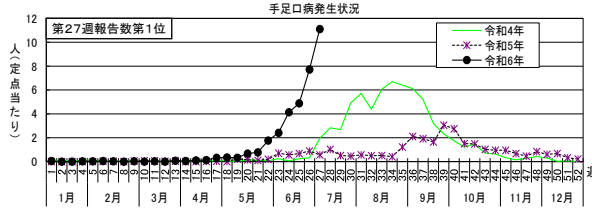
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問合せ先）044-276-8250 令和6年7月2日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年7月1日（月）～令和6年7月7日（日）〔令和6年第27週〕の感染症発生状況

第27週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）手足口病 2）新型コロナウイルス感染症 3）ヘルパンギーナでした。手足口病の定点当たり患者報告数は11.1人と前週（7.72人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は7.57人と前週（7.17人）から横ばいでした。ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は3.84人と前週（1.78人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



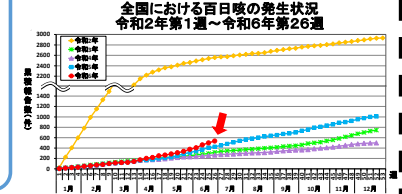
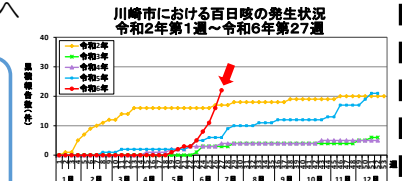
百日咳の報告数が増加しています！

川崎市における令和6年の百日咳の報告数は5月以降急増し、第27週（7月1日～7月7日）までに計22件となり、令和5年の年間報告数を上りました。全国的にも令和6年は百日咳の報告が多くみられています。

百日咳は生後6か月以下の乳児では重症化しやすく、死亡する危険性もあるため、百日咳に罹患した親や兄弟等からの感染を防ぐことが重要です。百日咳菌の排出は咳の症状が現れてから約3週間持続します。早期に適切な抗菌薬を使用することで排菌期間を短縮し、乳児への感染を防ぎましょう。

百日咳とは？

【病原体】百日咳菌
 【感染経路】咳やくしゃみ等による飛沫感染、接触感染
 【潜伏期間】通常5～10日間（最大3週間程度）
 【主な症状】
 ①カタル期：5～10日間の潜伏期間の後、かぜ様症状で始まり、次第に咳の回数が増えて程度も激しくなる。
 ②痙攣期：短く激しい咳が連続して起こり、息を吸う時に笛のような音が出る特有の咳発作がみられる。
 ③回復期：激しい咳が消失した後も、発作性の咳が続く。
 【予防方法】百日咳含有ワクチンの接種（5種混合ワクチン等）



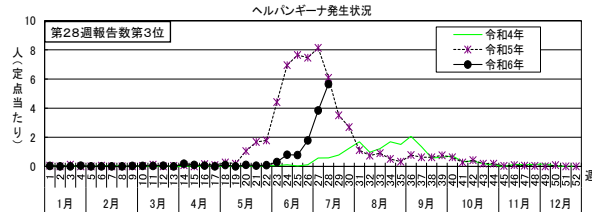
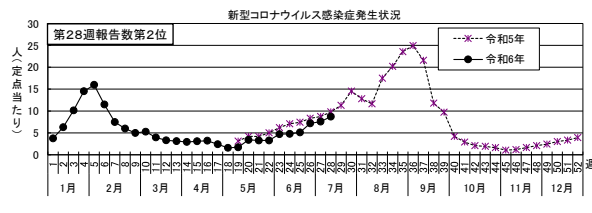
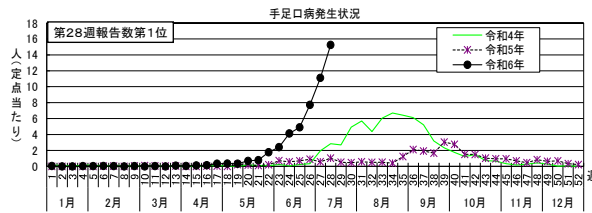
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問合せ先）044-276-8250 令和6年7月9日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年7月8日（月）～令和6年7月14日（日）〔令和6年第28週〕の感染症発生状況

第28週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）手足口病 2）新型コロナウイルス感染症 3）ヘルパンギーナでした。手足口病の定点当たり患者報告数は15.24人と前週（11.11人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は8.70人と前週（7.57人）から増加しました。ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は5.65人と前週（3.84人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。



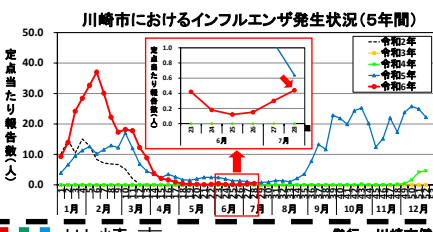
インフルエンザの地域的な流行がみられています！

川崎市におけるインフルエンザの定点当たり報告数は3週連続で増加しており、令和6年第28週（7月8日～14日）に0.44人となりました。特に高津区で地域的な流行がみられており、定点当たり1.80人と流行開始の目安である1.00人を超えています。また、本市のリアルタイムサーベイランスにおいても、一部の地域においてA型インフルエンザの報告数が増加しています。

現在市内では、インフルエンザだけでなく新型コロナウイルス感染症の報告数も増加しています。手指衛生等の対策を徹底するとともに、咳やくしゃみ等の症状がある場合は、感染を広げないために咳エチケットを心がけましょう。

川崎市におけるA型インフルエンザのリアルタイムサーベイランス分布マップ（令和6年7月16日）

川崎市感染症情報報告システム（KIDSS）（令和6年7月17日15時時点）



正しい咳エチケット

正しい咳エチケット
 マスクを正しく着用する。咳やくしゃみをする時は、ティッシュ・ハンカチ、上着の内側や袖などで口や鼻を覆う。
 悪い事例
 何もせずに咳やくしゃみをする。咳やくしゃみを手でおさえる。

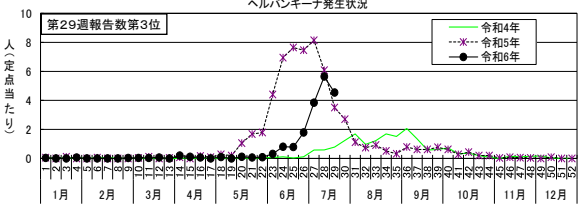
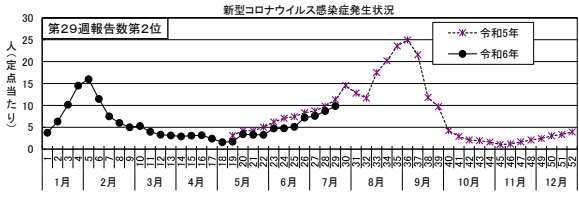
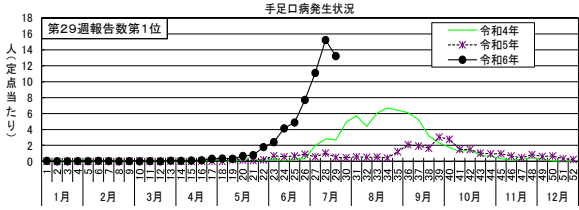
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問合せ先）044-276-8250 令和6年7月17日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年7月15日（月）～令和6年7月21日（日）〔令和6年第29週〕の感染症発生状況

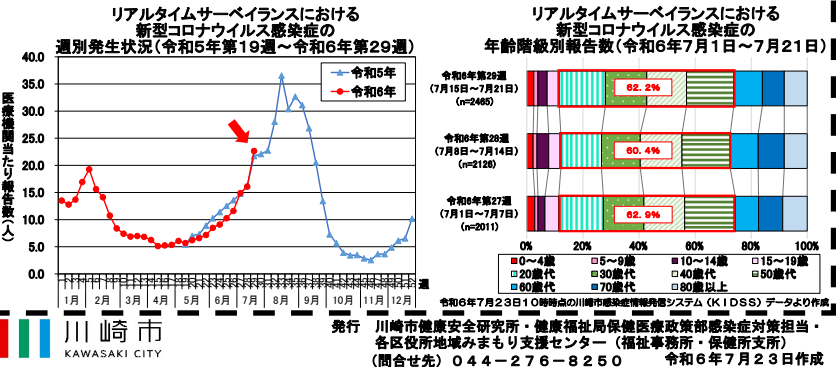
第29週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 手足口病 2) 新型コロナウイルス感染症 3) ヘルパンギーナでした。手足口病の定点当たり患者報告数は13.2人と前週（15.24人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は9.84人と前週（8.70人）から増加しました。ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は4.54人と前週（5.65人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。



新型コロナウイルス感染症～報告数が増加しています！～

川崎市における新型コロナウイルス感染症の報告数は、令和6年5月以降徐々に増加し、第29週（7月15日～21日）には定点当たり9.84人となりました。昨年は5月中旬から患者数が増加し、9月初旬にピークを迎え、今年も同様のペースで患者数が増加しています。また、本市のリアルタイムサーベイランスにおいても、5月頃から報告数が増加しており、過去3週間では20歳代から50歳代の報告割合が60%以上を占めていました。

夏休みに帰省や旅行等を予定されている方も多いと思いますが、体調が悪い時には無理をしないようにしましょう。また、咳や咽頭痛等の呼吸器症状がある場合は、周囲への感染拡大を防ぐためにもマスクの着用をお願いします。

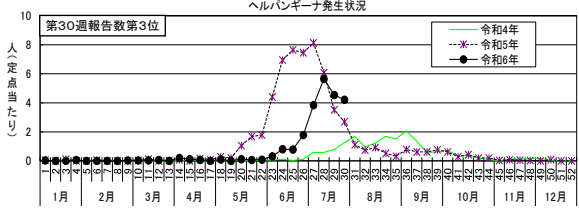
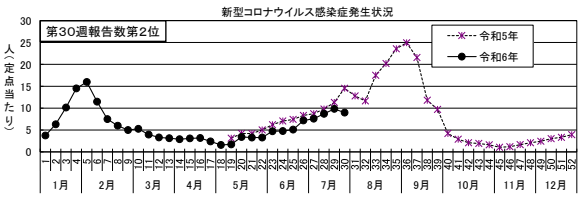
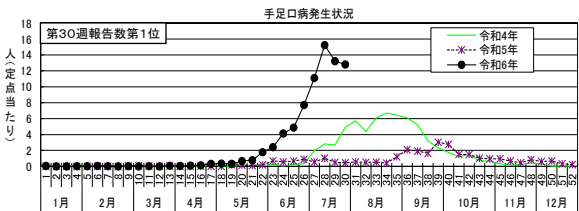


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年7月22日（月）～令和6年7月28日（日）〔令和6年第30週〕の感染症発生状況

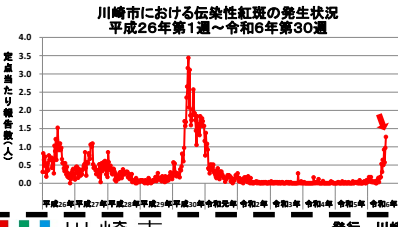
第30週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 手足口病 2) 新型コロナウイルス感染症 3) ヘルパンギーナでした。手足口病の定点当たり患者報告数は12.81人と前週（13.22人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は9.00人と前週（9.84人）から横ばいで推移しました。ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は4.22人と前週（4.54人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。



伝染性紅斑の報告数が増加しています！

伝染性紅斑は両頬に紅い発しんが現れるのが特徴的な感染症で、一般的には「リンゴ病」とも呼ばれています。近年は、新型コロナウイルス感染症の流行の影響により報告数が激減していましたが、今年は第23週（6月3日～9日）以降報告数が増加し、第30週（7月22日～28日）には定点当たり患者報告数が1.27人となりました。特に中原区で3.50人、宮前区で2.17人と流行発生警報基準値（2.00人）を超えています。

微熱やかぜ様症状で発症し、1週間程度経過すると発しんが現れますが、この時期にはすでに感染力はありません。予後は良好ですが、妊婦が感染すると、胎児に浮腫が生じる胎児水腫等を引き起こす可能性があります。妊娠中は、かぜ様症状がみられるお子さんとの接触を極力避けましょう。



伝染性紅斑とは？

潜伏期間：10～20日間
 好発年齢：就学前後の小児
 症状：微熱、かぜ様症状の後、両頬の境界鮮明な紅い発しん、手や足の発しん等（7～10日後で消失し、予後は良好）
 成人の場合は関節痛、頭痛等
 治療：特異的な治療方法はなく対症療法が中心

妊娠中の方は要注意！

妊娠中（特に妊娠初期）に伝染性紅斑に感染すると、胎児水腫という異常がみられたり、流産や死産の原因となることがあります。
 ※胎児水腫：胎児の心機能が低下し、胸や腹等に水がたまった状態

川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区域所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和6年7月30日作成